数少ないチャンスにも流通経大・林が立ちはだかる（撮影・星 宏樹）

駒澤大学0－3流通経済大学

原点回帰

試合終了を告げるホイッスルが鳴った瞬間、選手達は、一様に肩を落とし表情を曇らせた。0－3での敗戦。「実力の差が出た感はする」と秋田監督は語った。

前節、筑波大に5－1で大勝した勢いもあってか、序盤は駒大がペースを握る。前半8分には、三島の落としたボールに田中が反応しシュート。惜しくもGKの好セーブに阻まれた。しかし、好機を逃すと一変、「ボールを回されるのは一向に構わないと思ってたけど、選手たちはストレスになる」という相手の得意とする中盤でのパス回しに焦りを感じたのか、試合は次第に流通経大ペースへと傾いていく。そして前半終了間際の43分、CKの場面で相手にフリーでヘディングシュートを打たれ、失点を許してしまう。その直後にも、ロングシュートを決められ失点。DFの伊藤が「前半の2失点が全て」と語るように、駒大に反撃する力は残っておらず、後半5分にもセットプレーから得点を奪われ万事休す。流通経大に力の差を見せ付けられた形となった。試合後のミーティングでは秋田監督が「これだけ実力差があるんだから努力をしなければいけない。心のこもってない選手じゃ誰も感動しないし見てる人にも失礼」と選手たちに檄を飛ばした。

駒大はここまで3試合を消化して1勝2敗と今一つ波に乗りきれていない。チームがこのような状態になっているのには、秋田監督が強調する『気持ち』に問題がある。どんな劣勢に追い込まれたとしても諦めないでやろうとする『気持ち』、全力で戦う『気持ち』。それが今の選手たちには欠如している。「戦う気持ちとか感動させる試合とかそういうのが駒大の試合だと思う（山崎健）」。そうした『気持ち』を押し出したプレーで見ている人を『感動』させるのが駒大サッカー。

三日三晩で技術はつかないが気持ちは変えられる。だがそれは「誰に教わるわけでもなく、自分で意識してやらないと変わらない（秋田監督）」ことである。そのためには、選手自身が考え、駒大サッカーの原点を見つめなおしていくことが必要となってくる。

（中野成博）

43分、CKから先制点を許す

強敵に示された“差”